

# そうじの力だより

VOL.248



## 支援レポート

DXよりも案外生産性が向上するかも…  
実は我社は広がった！

鳥根県大田市の株大田技術コンサルタント。土木の測量調査・設計を行う建設コンサルタント会社です。

ここで一年前から、環境整備(整理・整頓・清掃)のお手伝いをしています。

きっかけは、ある講演会での私の講演を、同社の木村一治社長が聴講されていて、オファーをくれたのです。

その時のアンケートに、木村社長は「現在盛んに言われているDXによる生産性向上より、案外そうじによる整理整頓で作業効率が上がって生産性が向上するのではないかと考えさせられた」と書いてくれています。

当時の同社のお悩みは、事務所内が手狭なことでした。せっかく新入社員の採用が決まったのに、事務所内はごちゃごちゃしていて狭く、新人の机を入れるスペースもない。場合によっては、増築も必要かと検討していたそうです。

私とのオンライン面談で、不要ものを徹底して捨てることでスペースが拡がり、増築の必要がなくなるかも知れないとお伝えしたところ、ぜひやろうということで、取り組みがスタートしました。

始めてみると、案の定、不要物が大量に出てきました。木村社長いわく「我社には、こんなにも要らない物があったのかと思うほど、大量の不要物が出てきました。それらを処分すると、見違えるように事務所にスペースが生まれました」とのこと。

そして、広くなったスペースを二度と手狭にしないよう、必要なものについては置き場を決めて、表示と標識をして定位置化していきま



不要物を捨てて広くなった事務所

した。こうすることで、場が乱れにくくなり、リバウンドを防ぐことができます。

当初は遠慮がちに見えた社員さんたちも、取り組みが進むにつれて、いろいろと積極的に意見を出して、工夫してくれるようになってきました。

たとえば、写真を活用した標識を作ったり、測量用の杭や脚立などの置

場が老朽化したのを、新たにコンパネを貼

り替えたり、道具置き場を壁掛け式にしたり、

といった



写真を活用した標識で定位置化

ことで、社長室のキャビネットの中身も、当初は大量の書類ファイルでパンパンだったので、今ではスカスカ



コンパネが刷新された杭や脚立の置場

力になっています。

ユニークだったのは、車両に載せているハンマーの定位置化です。外の仕事でしようちゆう使うハンマーを、当初は荷

室に無造作に置いていた

のだけだったのですが、

荷室の収納棚の天板

に丸い穴を開け、そこに柄を

差し込んで定位置化してくれました。



穴にハンマーの柄を差し込んで定位置化

その他にも、地質調査で使う単管パイプ置場について、今までパイプを縦方向でしか取り出せなかったのを、横方向で取り出せるように構造を変える

など、各グループごとに、レイアウトの

変更など、今後のアイデアをいろいろと練つてくれているようです。

以下、木村社長のコメントです。

「結果が見え始めると、最初は動きの鈍かった社員も積極的に提案するようになり、あつという間に一年間の指導期間が経過しました。最初の頃と比べると、事務所は明らかに広くなり、実は我社は意外と広がったのだと実感しました。懸案だった新入社員の机も無事に配置でき、業務の効率化も進んできたように感じています。」

〈現在、

定期的に3S活動の時間を設け、社員同士で新たな提案や取組を実践しています。まだまだ道半ばではありますが、少しずつ理想に近い状態ではないでしょうか。今後も3S活動をさらに進め、「整理・整頓・清掃」にとどまらず、会社の風土そのものが変わっていくよう、会社一丸となって取り組んでいきたいと考えています。〉



小早による巡回支援の様子

一年間でこれだけ良くなったのだから、今後も続けていくことで、さらに働きやすい会社に進化していくでしょう。今後が楽しみです。(小早)

企業・団体の研修や講演を承ります。目的や対象者に応じて、時間や内容をカスタマイズできます。まずはホームページをご覧ください。



X(旧ツイッター)で、「環境整備 一日一言」を毎日更新しています。ぜひフォローしてみてください！

## 掲載記事紹介



企業の総務担当者向け専門誌、月刊『企業実務』から依頼を受け、『実務よろず相談室』というミニコーナーに記事を寄稿しましたので、全文をご紹介します。

このコーナーは、読者からの質問に専門家が回答する形式をとっています。

Q:毎朝のオフィス清掃を持ち回りとしていますが、若手従業員のみが担当しており、不満の声が上がっています。公平感のある制度設計や、若手従業員のモチベーションアップ方法について教えてください。

A:

トップが取り組んでいるか

トップ(社長)は清掃に参加しているでしょうか。トップが清掃をしていれば、ベ

月刊『企業実務』2026年2月号

～毎朝の清掃が若手従業員に偏らないようにするには～

テランや役職者もやらないわけにはいきません。しかし、トップがやっていないければ、ベテランや役職者がやらなくてもよい雰囲気になります。

「下々の者がやる雑務」というふうに捉えられてしまいがちな清掃を全員が公平に取り組むものと意識付けるためには、トップ自らが取り組み、範を示すことが必須です。

業務として規定しているか

朝の清掃が定時前に行われている場合には、ボランティアであり、強制はできません。一方、清掃が業務として行われている場合であっても、強制力が弱ければ、忙しいからといって清掃に参加しないことを許してしまうことになりがちです。

その場合、清掃の感想やレポートを提出させるなど、清掃活動へのエンゲージメントを高める工夫をしてみたいかがでしょうか。

経営計画書に明記しているか

会社のなかで、清掃が大切な取り組みと位置付けられているならば、経営計画書にそのように明記するべきです。また、朝の清掃に限らず、全社的に整理・整頓・清掃にきちんと取り組むと明記し、実践することをお勧めします。

そうすれば、安全性や生産性、快適性が向上することはもちろん、創意工夫の力が養われ、コミュニケーションも活性化します。

全社を挙げて整理・整頓・清掃に取り組む風土があれば、朝の清掃を、ベテランや役職者が忌避することもなくなるでしょう。

(——以上、全文を引用)

ご承知のとおり、私が推進している環境整備(整理・整頓・清掃)とは、トップ(社長)を中心として、パートやアルバイトも含めて取り組む全社活動です。

そこには決して、清掃を「下々の者がやる雑務」と捉える考え方はありません。世の中の多くの企業が、環境整備に取り組んで欲しいと思います。(小早)

### 編集後記



先人に思いを馳せる

先日、20歳の娘と18歳の息子と共に、鹿児島県の知覧特攻平和会館と鹿屋航空基地資料館に行ってみました。



両方とも、先の大戦で特攻で散華された方たちの遺書や遺影、遺品などが展示されている施設です。

先人たちの尊い犠牲のうえに、今の日本があるのだということを、私たちは決して忘れてはなりません。

子どもたちにとっても、それぞれ、感じる場所があったようで、思い出深い旅になりました。(小早)

### 飛鳥のつばやき



国旗王

親子でカードゲーム「国旗王(こっきんぐ)」にハマっています。



お題カード(Ex.人口が一番多い国は?)に一番当てはまりそうな手持ちの国旗カードを、全員で出して勝負するゲーム。

ただ、何度やっても全然国名も国旗も覚えられないので、Youtubeで各国の観光動画を見てみることにしたら、めっちゃくちゃ頭に入ってきました！動画すごい！

国は全部で197あるそう。コンプリートして、本当の国旗王を目指したいな～！(大槻)

## 株式会社そうじの力

そうじで組織と人を磨くコンサルティング

弊社は“そうじ＝整理・整頓・清掃”を通じた企業風土改革を支援します。

講義、実習、チームミーティング、計画作り、現場巡回を通じて、社長と社員の意識改革を図り、健全な企業風土作りをお手伝いします。

支援期間は1年から。毎月1回訪問を

原則としますが、企業規模や現場の状況、ご要望に応じて、プログラムをオーダーメイドします。

また各種団体向けの講演のご依頼も受け付けております。(全国対応)